

令和3（2021）年 11月 19日

保護者の皆さまへ

吹田市立千里第一小学校  
校長 平山 ちさと

## 令和3年度全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月中旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、得られた課題をもとに、よりきめ細やかな指導を進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

### 1. 教科に関する調査の分析

#### ◆国語<概要>

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の三領域と「言葉の特徴や使い方に関する事項」について、全国値と比べ課題がある。
- ・無回答率については、全国値より高く、粘り強く学習に取り組む姿勢に課題がある。
- ・学力の分布に関しては、平均正答数は全国値と比べてほぼ中央よりにある。

#### ◆国語<各領域における成果と課題>

##### 【話すこと・聞くこと】

- ・「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」・「目的や意図に応じ、資料を使って話す」では、質問の意図を捉えることはできているが、話す内容が明確になるように構成を考えることに課題がある。

##### 【書くこと】

- ・「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ことに課題がある。

##### 【読むこと】

- ・「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する」は全国平均値を上回っている。
- ・「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」ことに課題がある。

### 【言葉の特徴や使い方に関する事項】

- ・「学年別漢字配当に示されている漢字を文の中で正しく使う」、「文の中における主語と述語との関係を捉える」ことに課題がある。

### ◆国語における今後の改善点

- ・【話すこと・聞くこと】については、授業の中で、伝えたいことを明確にして、構成をじっくり考える時間を設けることで力を付けていく。
- ・【書くこと】については、書く目的を明確にして書く時間や、書いた文章を推敲する時間を設けることで力を付けていく。また、各教科の授業で考えや理由や振り返りを書くなどして、書く経験を増やしていく。
- ・【読むこと】については、説明的な文章や文学的な文章を主な題材として、中心となる語や文を見つける時間やそれらをまとめて要約する時間を学習計画に位置付けて、読む力を付けていく。
- ・【言葉の特徴や使い方に関する事項】については、学習した漢字を文の中で正しく使えるように、宿題やモジュール学習を中心として、継続して指導していく。主語と述語の使い方については、国語授業全般で、主語や述語を明確にして、文を書いたり、考えを話したりする時間を設定することで力を付けていく。

### ◆算数〈概要〉

- ・「図形」「測定」の領域は全国値を上回っている。「データの活用」の領域は、全国値とほぼ同等である。「数と計算」「変化と関係」の領域は全国値と比べ、課題がある。
- ・学力の分布に関しては、正答数は多少のばらつきはあるものの、全国値と同様にほぼ右肩上がりとなっている。

### ◆算数〈各領域における成果と課題〉

#### 【数と計算】

- ・「二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる」は、全国値を上回っている。「小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1とした時に比較量が示された小数にあたる理由を記述できる」に、課題がある。

#### 【図形】

- ・「複数の図形を組み合わせた図形の面積についての量の保存性や量の加法性を元に捉え、比べることができる」は、全国値を上回っています。「三角形の面積の求め方について理解している」に、課題がある。

#### 【測定】

- ・「二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方を記述できる」、「条件に合う時刻を求めることができる」は、全国値並である。
- ・「直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ」では、全国値を上回っている。

### 【変化と関係】

- ・「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる」、「速さを求める除法の式と商の意味を理解している」、「速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる」ことに課題がある。

### 【データの活用】

- ・多くの項目で、全国平均値を上回っているが、「集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる」に課題がある。

## ◆算数科における今後の改善点

- ・【数と計算】では、基準量と比較量を正確に捉えるために、問題文だけで量を判断するのはなく、図と関連させることで量をイメージするなどの工夫をして、指導していく。
- ・【図形】【測定】では、昨年度まで、算数科を研究教科として、児童の「問い」から様々な「見方・考え方」を引き出してきた成果が表れていると考えられる。引き続き取り組みを継続していく。
- ・【変化と関係】では、【数と計算】の割合の指導と同様に、問題文から数値を見取り公式に当てはめるだけではなく、図と関連させるなどの工夫が必要であると考えられる。問題を読み、図などに表現して考えられるように指導していく。
- ・【データの活用】では、適切なデータを選ぶだけでなく、その理由まで明確にしていくことが大切であると考えられる。データを自分の考えと関連付けて考えさせるなどの工夫をしていく。

## 2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

### 【学習環境・生活環境について】

- ・「携帯・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値を上回っている。
- ・「家で自分で計画を立てて勉強していますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値を下回っている。

### 【地域や社会に関わる活動の状況について】

- ・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」や「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値を下回っている。

### 【挑戦心・達成感・規範意識・自己有用感について】

- ・「自分には、よいところがあると思っていますか」、「将来の夢を持っていますか」、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことはありますか」、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値を上回っている。
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に肯定的な回答をしている児童の割合が全国値とほぼ同等である。

- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」や「友達と協力するのは楽しいと思いますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値を上回っている。

#### 【教科・学習について】

- ・「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり、必要に応じて質問したりしていますか」や「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えを持ちたり自分の考えを広げたりしていますか」に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は、全国値を上回っている。
- ・「算数の勉強は好きですか」や「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は、全国値を上回っている。
- ・「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は、全国値を下回っている。
- ・「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」に対して、肯定的な回答をした児童の割合が全国値を下回っている。

### 3. 今後の取り組みと改善

本校では、研究テーマを「文学的な文章における汎用的な読解力の習得を目指して」と設定し、文学的な教材における児童の汎用的な読解力の習得を目指しております。そのために、全学年で文学的な教材における指導内容を整理し、言葉や文のどこに目を向けてどう考えたらよいかということを中心に授業を進めています。また、文学的な文章を通して学習した読解の方法や考え方を、次に出会う文学的な文章を読み進める際に活用できる汎用的な読解力の習得を目指して授業を進めています。研究テーマに沿った授業改善を進めて、今回の調査で課題であった文章の構成を考えると文章を要約すること等の力を伸ばしていきます。

今年度の6年生は、「教科に関する調査」と「学習環境等に関する調査の傾向」から、算数の調査問題のうち、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題の無回答率が全国値と比べて低く、最後まで粘り強く問題に取り組むことができました。昨年度までの算数科を中心とした研究を進めてきた成果が表れていると考えます。また、「教科に関する調査」のうち、算数では、全国値とほぼ同等の結果が出ました。これは、これまでに習熟別指導を実施してきたことの成果が表れていると考えます。今後も、習熟度別少人数指導の充実や専科教員による指導、ICTを効果的に取り入れるなど、指導方法の工夫改善に努めていきます。

「教科に関する調査」のうち、国語では、全国値を下回る結果でした。今年度より、国語科を中心とした授業研究を進めていく中で、系統立てた指導方法、指導内容の明確化、見方・考え方の具体化等、全職員で共有し、授業改善に努めていきます。